

Korea File 2019 NO.1 別冊「朝鮮の声」(2019/01/01~03/31)

●金正恩党委員長が新年の辞(01/01)

愛する全国の人民と人民軍将兵の皆さん！同胞兄弟姉妹の皆さん！同志と友人の皆さん！われわれは消せないもう一つの歴史の深い足跡を残し、祖国と革命、民族の歴史に意義深い出来事が記された2018年を送り、希望の夢を抱いて新年2019年を迎えました。

新年に際して私は、昨年の激動の日々にわが党と息吹と歩みを共にし、社会主義建設偉業に献身してきた全ての人民と人民軍将兵に心からのあいさつを送り、全国の家庭に愛と希望、幸福が満ちあふれることを祈ります。

私は、民族の和解と団結、平和繁栄の新しい歴史を記していくためにわれわれと心を合わせた南の同胞と海外同胞に温かい新年のあいさつを送ります。

私は、社会的進歩と発展、世界の平和と正義のために努力している各国の首班と友人の活動で成果があることを願います。

同志の皆さん！2018年は、わが党の自主路線と戦略的決断によって内外の情勢で大きな変化が起こり、社会主義建設が新たな段階に入った歴史的な年でした。

昨年4月に行われた党中央委員会第7期第3回総会は、並進路線の偉大な勝利に基づいてわが革命を新たに上昇させ、社会主義の前進速度を引き続き上げていく上で転換的な意義を持つ重要な契機になりました。社会主義に対する必勝の信念を抱いて艱苦(かんく)な闘いの道を歩んできたわが人民は、自主権守護と平和繁栄のしっかりとした保証を自分の手でもたらし、富強祖国建設のより高い目標を達成するための革命的大進軍に立ち上がるようになりました。

われわれの主導的で積極的な努力によって朝鮮半島で平和へと向かう気流が形成され、朝鮮の国際的威信が引き続き高まる中、わが人民は大きな誇りと自負心を抱いて栄光ある朝鮮民主主義人民共和国創建70周年を盛大に祝いました。

9月の祝賀行事を通じて、全社会の思想的統一と党と人民の一心団結を実現し、強固な自立経済と自衛的国防力を持つわが共和国の威力と社会主義偉業の勝利のために最後まで闘おうとする英雄的朝鮮人民の強烈な意志を世界に力強く誇示しました。

昨年、全ての人民が経済建設に総力を集中することに関する党の新たな戦略的路線の貫徹に立ち上がって自立経済の土台を一層強化しました。

人民経済の主体化路線を貫徹する闘いで意味のある貴い前進が遂げられました。北倉火力発電連合企業所(平安南道)の電力生産能力が一段と増し、金鉄(金策製鉄連合企業所・咸鏡北道)と黄鉄(黄海製鉄連合企業所・黄海北道)をはじめとする金属工場が主体化の成果を拡大し、化学工業の自立的土台を強化する事業が力強く推し進められました。われわれの力、われわれの技術、われわれの資源で作り出した誇りとやりがいで見ると満足な各種の車両や軽工業製品の質的水準が一段階上がり、大量生産されて朝鮮人民を喜ばせています。

石炭工業部門の労働者階級は、全てが困難な中で自立経済の生命線を守って決死の生産闘争を行ったし、農業部門が穀物増産のために粘り強く闘った結果、不利な天候でも多収穫を収めた部署と農場員が多く輩出しました。

軍需工業部門は、経済建設に全ての力を集中することに関するわが党の力強い呼び掛けを心で受け止め、さまざまな農業機械と建設機械、共同生産品や一般消費財を生産して経済発展と人民生活の向上を促しました。

昨年、党の雄大な構想と作戦に従って労働党時代を輝かすための膨大な大建設事業が立体的で大きなスケールで展開されたことで、いかなる難関の中でもびくともせず、立ち止まることのないし、さらに怒濤(どとう)のように立ち上がって上昇の一途をたどる社会主義朝鮮の強い気概とわれわれの自立経済の強大な潜在力が現実に誇示されました。

科学教育事業で革命的転換を起こすことに関する党中央委員会4月総会の決定に従って科学技術部門が先端産業の発展を促し、人民経済の活性化に寄与する価値ある研究成果を収めたし、教育の現代化、科学化が積極的に推し進められ、全国の多くの大学と中学校、小学校の教育条件と環境が改善しました。

文化・芸術部門は、大マスゲームと芸術公演を創作、公演して内外の大きな反響を呼び、チュチェ芸術の発展の様相と特有性、優位性をはっきりと示威しました。

同志の皆さん！

革命の年代記に誇らしい勝利の一ページを記した今年の闘いを通じてわれわれは、自分の偉業の正当性とわが国家の不敗の力を改めて確信しました。不正義の挑戦に立ち向かっていくわが人民の不屈の闘いによってわが国家の自強力（自分で自分を強くする力）は絶えず養われ、社会主義強国へと向かう歩みはさらに速まっています。

私はこの場を借りて、党に従って勝利の道を止まることなく駆けて祖国の青史に輝かしい偉勲を立てた全ての人民と人民軍将兵に改めて熱い感謝のあいさつを送りたいと思います。

同志の皆さん！チュチェ革命の新時代を輝かす闘いの中でさらに洗練され、強くなったわが党と人民は、より大きな信念と抱負を抱いて新年の進軍路に立ちました。

今年、われわれには国の自立的発展能力を拡大、強化して社会主義建設のさらなる前進のための確固たる展望を開くべき闘争課題が提起されています。

われわれには、社会主義のより明るい未来を自力で切り開く力と土台、われわれ式の闘争方略と創造方式があります。党の新たな戦略的路線を堅持し、自力更生、堅忍不拔の精神で闘うとき、国力は倍加し、人民の夢と理想は立派に実現することになるでしょう。

「自力更生の旗印高らかに社会主義建設の新たな進撃路を開いていこう！」、これがわれわれが掲げていくべきスローガンです。われわれは、朝鮮革命の全ての道のりで常に闘いの旗印となり、飛躍の原動力となってきた自力更生を繁栄の宝剣として捉え、社会主義建設の全ての戦線で革命の高揚を起こしていかなければなりません。

社会主義自立経済の威力をさらに強化しなければなりません。

われわれは自前の技術力と資源、全ての人民の高い創造精神と革命的熱意に依拠して国家経済発展の戦略的目標を成功裏に達成し、新たな成長段階へと移行しなければなりません。

人民経済全般を整備、補強し、活性化するための国家的な作戦をしっかりと立て、強く執行していかなければなりません。

自立経済の潜在力を余すところなく発揚し、経済発展の新たな要素と動力を生かすための戦略的対策を講じ、国の人的・物的資源を経済建設で実利が出るように手配、動員しなければなりません。国家経済事業で中心を捉えて関連部門をもり立て、将来を見通した発展を図って経済の活性化を推し進めていかなければなりません。

経済全般に対する国家の統一的指導を円滑に実現し、勤労者が自発的熱意と創造力を最大限発揮できるように管理方法を革新しなければなりません。内閣と国家経済指導機関は、社会主義経済法則に従って計画化と価格設定、財政および金融管理を改善し、経済的てこが企業の生産の活性化と拡大再生産に積極的に作用するようにしなければなりません。経済事業の効率を高め、企業が経営活動を円滑に行えるように機構体系と事業体系を整備しなければなりません。

人材と科学技術は、社会主義建設で大飛躍を起こすためのわれわれの主な戦略的資源であり、武器です。

国家的に人材育成および科学技術発展事業を目的指向性を持って推し進め、これに対する投資を増やさなければなりません。

世界的な教育発展の趨勢（すうせい）と教育学的要求に即して授業の内容と方法を革新して社会・経済発展を担っていく人材を質的に育てなければなりません。新しい技術の開発目標を高く立て、実用的で経済的意義の大きい中核技術の研究に力を集中して経済成長のけん引力を確保すべきであり、科学研究機関と企業が緊密に協力して生産と技術の発展を促し、知的創造力を増大させられるように制度的措置を講じなければなりません。

人民経済の全ての部門が国家経済発展5カ年戦略目標の遂行に拍車を掛けなければなりません。

電力問題の解決に優先的な力を入れて人民経済活性化の突破口を開かなければなりません。

今年、社会主義経済建設で提起される最も重要で差し迫った課題の一つは、電力の生産を画期的に増やすことです。

電力工業部門に対する国家的な投資を集中して現存の電力生産の土台を整備、補強し、最大限効果的に利用し、緊要な部門と対象から一つずつ改修、現代化して電力生産を差し当たり、過去最高であった年度の生産水準に引き上げなければなりません。

国の電力問題の解決を全国的な事業として捉え、漁郎川発電所（咸鏡北道）と端川発電所（咸鏡南道）をはじめとする水力発電所の建設を推し進め、潮力と風力、原子力の発電能力を将来を見通して構築し、各道市郡が地元の多様なエネルギー資源を効果的に開発、利用しなければなりません。

石炭工業は自立経済発展を側面から支える戦線です。

石炭がどんどん出てこそ切迫する電力問題も解決できるし、金属工業をはじめ人民経済の各部門の燃料および動力需要を満たせます。

石炭工業部門は、燃料用石炭の供給に最優先の力を入れて火力発電所が電力生産を一瞬も止めることなく正常化するようにしなければなりません。

全国が立ち上がって炭鉱を思想・精神的に、物質・技術的に力強く支援し、石炭生産に必要な設備と資材、炭鉱作業員の生活環境を責任を持って整えるための国家的な対策を強く立てなければなりません。

経済建設の2本柱である金属工業と化学工業の主体化の実現でさらなる発展を遂げなければなりません。

金属工業部門は、主体化された製鉄・製鋼工程を科学技術的に完備して正常運営して生産コストを最大限に下げ、鉄生産能力が高まるのに合わせて鉄鉱石と耐火物、合金鉄を十分に供給するための作戦案を立てて執行しなければなりません。

化学工業部門がリン酸肥料工場の建設とC1化学工業の創設を急ぎ、灰芒硝（硫酸塩鉱物）工業と化学繊維工業を発展させ、現存の化学設備と技術工程を省エネ型、省力型に更新しなければなりません。今年、化学肥料工場をフル稼働させて2・8ピナロン連合企業所（咸鏡南道）の生産をもり立てるのに国家的な力を入れなければなりません。

鉄道をはじめ交通輸送部門が規律強化の機運を起こして輸送能力と輸送密度を高めて輸送の緊張を解消し、機械製作工業部門は機械設計と加工技術を革新してさまざまな現代的な機械設備をわれわれの実情に合わせてわれわれ式に開発、生産しなければなりません。

人民生活を画期的に高めるのはわが党と国家の第一の重大事です。

社会主義経済建設の主戦場である農業戦線が増産闘争を力強く行わなければなりません。

内閣と当該部門は、営農工程別の科学技術的指導を実質的に綿密に行い、今年の農業に必要な営農物資を十分に供給して穀物生産を決定的に増やさなければなりません。農業の主人である農場員の意味と利益を尊重し、社会主義分配原則の要求を正確に具現しなければなりません。

党が示した畜産業発展の4大要素を堅持し、養鶏工場をはじめ畜産拠点を現代化、活性化して協同農場の共同畜産と個人副業畜産を奨励し、人民により多くの食肉と卵が与えられるようにしなければなりません。

水産部門の物質的・技術的土台を強化して漁獲と養魚、養殖を科学化し、水産資源を保護、増殖して水産業発展の新しい道を開かなければなりません。

軽工業部門は現代化、国産化、質向上の旗印を引き続き高く掲げて人民が好むさまざまな消費財を生産、供給し、各道市郡が調味料工場をはじめ地方工業工場を現代的に一新し、自前の原料、資源に依拠して生産を正常化しなければなりません。

われわれは、今年も祖国の富強と人民の幸福のための壮大な大建設事業を大きなスケールで行わなければなりません。

全党、全国、全人民が立ち上がって三池淵郡（両江道）を山間文化都市の標準、社会主義理想郷に立派に変貌させ、元山葛麻海岸観光地区（江原道）と新しい観光地区をはじめわれわれの時代を代表する施設を最上の水準で完工しなければなりません。建築設計と建設工法を引き続き革新し、仕上げ材の国産化と質的發展を遂げることで、全ての建築物をわれわれ式に華やかに建設し、人民が文明と樂を享受するようにしなければなりません。国家的な建設が大々的に行われるのに合わせて、セメントをはじめ建材の生産能力をわれわれの計画通りに拡大しなければなりません。

山林復旧戦闘第2段階の課題を積極的に推し進め、庭園化・緑化と都市経営、道路管理事業を改善し、環境汚染を徹底的に防がなければなりません。

全ての部門、全ての部署が予備と可能性、潜在力を最大限に探求、動員して増産し、節約して人民経済計画を指標別に完遂しなければなりません。

社会主義のわが国家の政治的・思想的力をあらゆる面から打ち固めていかなければなりません。

チュチェの人民観、人民哲学を党と国家の活動に徹底的に具現して広範な大衆を党の周りにしっかり結集させなければなりません。

党と政権機関、勤労者団体組織は、どんな仕事を作戦し、展開するにも、人民の利益を最優先、絶対視し、人民の心の声に耳を傾けて人民が望み、恩恵を受けられることなら万事を差し置いて取り組み、無条件やり遂げなければなりません。いつでも、いかなる条件や環境でも人民のために滅私服務して人民生活に第一の関心を払い、全ての人々を懐に抱いて見守る愛と信頼の政治が人民に熱く行き届くようにしなければなりません。党と大衆の混然一体を破壊し、社会主義制度をむしろむく勢と官僚主義、不正、腐敗の大小の行為を抑え込む闘いの熱度を高めなければなりません。

全ての党員と勤労者は、情勢と環境がどう変わろうともわが国家第一主義を信念として心に刻み、われわれ式に社会主義経済建設を力強く推し進め、世代を継いで守ってきた大切な社会主義のわが家をわれわれの手で世界にこれ見よがしに立派に建てていく愛国の熱望を抱き、誠実な血と汗で祖国の偉大な歴史を記していかなければなりません。

社会主義文明建設を推し進めなければなりません。

全社会に革命的学習気風と文化的生活気風を立てて誰もが發展する時代の要求に即した多面的な知識と文化的素養を備えるようにしなければなりません。文学・芸術部門は、時代と現実を反映して大衆の心を捉える映画や歌をはじめとする文芸作品を立派に創作して民族の精神的・文化的富を豊かにし、こんにちの革命の大進軍を力強く鼓舞、激励しなければなりません。

人民が社会主義保健医療制度の優位性を実感できるように製薬工場と医療機器工場を現代化して医療機関の面貌を一新し、医療サービスの水準を高めなければなりません。大衆スポーツを活発に行い、専門スポーツ技術を發展させて全国に気迫とロマンが満ちあふれるようにし、国際大会で引き続き朝鮮人の英知と力をとどろかさなければなりません。

社会主義生活様式と高尚な道德気風を確立するための機運を起こし、わが人民の感情、情緒と美学に反する非道德的で非文化的な風潮が現れないようにし、われわれの社会を徳と情でむつまじい一つの大家庭に築いていかなければなりません。

国家防衛力をしっかり打ち固めなければなりません。

人民軍は、4大強軍化路線を一貫して堅持して闘い、党と革命、祖国と人民の安全を頼もしく守り、社会主義建設の各戦闘場でこれまでと同様に引き続き奇跡的な神話を創造することで、革命軍の威力、わが党の軍隊としての不敗の威力を余すところなく誇示しなければなりません。

朝鮮人民内務軍は、革命の赤い盾らしくわが党と制度、人民を決死防衛すべきであり、労農赤衛軍は創建60周年を迎える今年、戦闘力の強化で転換をもたらさなければなりません。強力な自衛的国防力は国家存立の礎であり、平和守護の保証です。

軍需工業部門は、朝鮮半島の平和を武力で頼もしく保証できるよう国防工業の主体化、現代化を推し進め、国の防衛力を世界の先進国の水準に引き続き向上させて経済建設を積極的に支援しなければなりません。

今年、われわれに提起された戦闘的課題を成功裏に遂行するには、革命の指揮メンバーである活動家が決心し、覚悟を固めて発奮し、闘わなければなりません。

党政策貫徹の主体、その主人はほかならぬ人民大衆であり、現実を誰よりもよく知るのも人民大衆です。活動家は、常に沸き上がる現場に入って全てを直接自分の目で見て実態を全面的に分析すべきであり、大衆の中に深く入って彼らと共に暮らし、彼らに呼び掛けて提起される問題を解決していかなければなりません。党の構想に自分の理想と抱負を近づけ、絶えず実力を高めて視野を広げ、全ての活動を党が望む高みで完全無欠にやり遂げる巧みな組織者、頑強な実践家にならなければなりません。活動家は困難なことに身をささげ、祖国と人民のために夜に寝るのも忘れて必死に思索すべきであり、人民の大きくなる笑い声に闘いがいを求めなければなりません。

こんにち、社会主義建設で青年が役割をしっかりと果たさなければなりません。

青年は、最近、党の力強い呼び掛けに従って新しい時代の神話を創造したその精神と気概で党が呼ぶ革命の哨所で斥候隊の榮譽を輝かさなければなりません。こんにちの激動の時代に青年は、新しい技術の開拓者、新しい文化の創造者、大飛躍の先駆者になり、青年が働くどこでも青春の気迫と活力があふれるようにしなければなりません。

党組織の役割を決定的に高めなければなりません。

各級党組織は、時代と革命発展の要求に即して政治・思想活動を積極的に行い、わが人民の剛毅（ごうき）な精神力が社会主義建設の全域で高く発揮されるようにしなければなりません。行政・経済活動家が党政策貫徹のための作戦と指揮を責任を持って行うよう後押しし、自分の部門、自分の部署で集团的革新と競争機運を激しく起こしていかなければなりません。各道市郡の党委員会は農業と教育事業、地方工業の発展で転換をもたらす闘いを強く推し進めなければなりません。

同志の皆さん！

昨年は、70余年の民族分裂史上これまでにない劇的な変化が起きた激動の年でした。

われわれは、恒常的な戦争の危機にひんしている朝鮮半島の不正常な状態を終わらせ、民族の和解と平和繁栄の時代を開く決心の下、昨年の年初から北南関係の大転換のための主導的で果敢な措置を講じました。

内外の大きな期待と関心の中、1年に3度の北南首脳の対面と会談が行われたのは前例のないことであり、これは、北南関係が完全に新たな段階に入ったことをはっきりと示しました。

朝鮮半島にもはや戦争のない平和時代を開くという確固たる決意と意志を込めて採択された板門店宣言と9月平壤共同宣言、北南軍事分野合意書は、北南間で武力による同族間の争いを終息させることを確約した事実上の不可侵宣言であって、実に重大な意義を持ちます。

北と南のスポーツ選手が国際大会に共同で進出して民族の英知と力をとどろかせば、芸能人は平壤とソウルを行き来し、民族の和解と統一の熱気を熱く高めました。

さまざまな障害と困難を果敢に克服し、鉄道、道路、山林、保健医療をはじめ多様な分野の協力事業を推し進めて民族の共同繁栄のための意味ある第一歩を踏み出しました。

この1年間に北南関係で起きた驚くべき変化は、わが民族同士互いに心と力を合わせていけば、朝鮮半島を最も平和で末永く繁栄する民族の真のすみかにできるという確信を全同胞に抱かせました。

今はまだ第一歩にすぎないが、北と南が志を合わせ、知恵を集めて不信と対決の極限にひんした北南関係を信頼と和解の関係に確実に転換させ、過去には想像もできなかった驚異的な成果が短期間に収められたことを私は大変満足に思います。

われわれは、未曾有の出来事で立派に飾られた昨年の貴重な成果に基づいて新年2019年に北南関係の発展と平和繁栄、祖国統一のための闘いでさらなる前進を遂げなければなりません。

全民族が「歴史的な北南宣言を徹底的に履行して朝鮮半島の平和と繁栄、統一の全盛期を開いていこう!」、このスローガンを高く掲げていかなければなりません。

北南間の軍事的敵対関係を根本的に清算し、朝鮮半島を恒久的で強固な平和地帯にするのは、われわれの確固不動の意志です。

北と南は既に合意した通り、対峙(たいじ)地域での軍事的敵対関係の解消を地上と空中、海上をはじめ朝鮮半島全域に広げるための実践的措置を積極的に講じていかなければなりません。

北と南が平和繁栄の道に進むことを確約した以上、朝鮮半島情勢の緊張の根源となっている外部勢力との合同軍事演習をもはや許してはならないし、外部からの戦略資産をはじめ戦争装備の搬入も完全に中止されなければならないというのがわれわれの主張です。

停戦協定の当事者との緊密な連携の下、朝鮮半島の現在の停戦体制を平和体制に転換するための多者協議も積極的に推し進めて恒久的な平和保障の土台を実質的に築かなければなりません。

全同胞は、朝鮮半島の平和の主人はわが民族であるという自覚を持って一致団結し、この地で平和を破壊して軍事的緊張をあおる一切の行為を阻止し、破綻させる闘いを力強く行っていくべきでしょう。

北南間の協力と交流を全面的に拡大し、発展させて民族の和解と団結を強固にし、全同胞が実際に北南関係改善の恩恵に浴するようにならなければなりません。

差し当たり、われわれは開城工業地区に進出していた南側の企業家の苦しい事情や民族の名山を見たがる南の同胞の願いを酌んで何の前提条件や対価もなしに開城工業地区と金剛山観光を再開する用意があります。

北と南が固く手を取り合い、同胞の団結した力に依拠するなら、外部勢力のあらゆる制裁と圧力も、いかなる挑戦や試練も民族繁栄の活路を開いていこうとするわれわれの前途を阻めないでしょう。

われわれは、北南関係を自分らの好みと利益に服従させようとしてわが民族の和解と団結、統一の前途を阻む外部勢力の干渉と介入を絶対に許さないでしょう。

北と南は、統一に対する全民族の関心と熱望が前例なく高まっているこんにちの良い雰囲気を見逃さず、全民族の合意に基づいた平和的な統一方案を積極的に模索すべきであり、その実現のために真摯な努力を傾けていくべきでしょう。

北と南、海外の全同胞は、勇気百倍で北南宣言を貫徹するための民族挙げての進軍をさらに加速させることで、今年を北南関係の発展と祖国統一偉業の遂行でもう一つの画期的な転換をもたらす歴史的な年に輝かさなければなりません。

同志の皆さん!

昨年、わが党と朝鮮政府は、世界の平和と安全を守り、各国との友好を拡大、強化するために責任ある努力を傾けました。

3度にわたるわれわれの中国訪問とキューバ代表団のわが国訪問は、社会主義諸国間の戦略的な意思疎通と伝統的な友好・協力関係を強化する上で特筆すべき出来事となりました。

昨年、わが国と世界各国との間に党・国家・政府レベルの往来と交流が活発に行われて互いの理解が深まり、国際社会の健全な発展を促すという立場と意志が確認されました。

歴史的な初の朝米首脳の対面と会談は、地球上で最も敵対的であった朝米関係を劇的に転換し、朝鮮半島と地域の平和と安全を保障するのに大きく寄与しました。

6・12朝米共同声明で宣明したように、新世紀の要求に即した両国の新たな関係を樹立し、朝鮮半島に恒久的で強固な平和体制を構築し、完全な非核化へと進むのはわが党と朝鮮政府の不変の立場であり、私の確固たる意志です。

そこで、われわれは既に、これ以上核兵器を製造したり、実験したりもせず、使用したり、拡散したりもしないことを内外に宣布し、さまざまな実践的措置を講じてきました。

われわれの主導的で先制的な努力に米国が信頼性のある措置を講じ、相応の実践的な行動で応えるなら、両国の関係はより確実で画期的な措置を講じていくプロセスを通じて立派で速い速度で前進することになるでしょう。

われわれには、朝米両国の忌まわしい過去の歴史に引き続き固執し、抱え込む意思がないし、一日も早く過去にけりをつけ、両国人民の志向と時代の発展の要求に即して新しい関係樹立に向けて進む用意があります。

昨年、急速に進展した北南関係の現実が示しているように、いったんやろうと決心さえすればできないことはないし、対話の相手が互いの凝り固まった主張から大胆に脱して互いに認め、尊重する原則で公正な提案を行い、正しい協議の姿勢と問題解決の意志を持って臨むなら、必ず互いに有益な終着点に行き着くことでしょう。

私は、米国との関係でも今年、北南関係が大転換を迎えたように、双方の努力によって今後、良い結果が必ずもたらされるものと信じています。

私は、昨年6月、米大統領と会って有益な会談を行い、建設的な意見を交わしたし、双方が抱えている憂慮ともつれた問題の解決の早い方途について認識を同じくしたと思います。

私は、今後いつでもまた米大統領と対座する準備ができており、必ず国際社会が歓迎する結果をもたらすために努力するでしょう。

ただし、米国が世界の前で交わした自分の約束を守らず、わが人民の忍耐力を誤断して一方的に何かを強要しようとして引き続き朝鮮に対する制裁と圧力へと進むなら、われわれとしてもやむを得ず国の自主権と国家の最高利益を守り、朝鮮半島の平和と安定を成し遂げるための新しい道を模索せざるを得なくなるかもしれません。

朝鮮半島と地域の情勢安定は決して容易にもたらされたのではないし、真に平和を願う国なら、現在の局面を重んじるべき共同の責任を負っています。周辺諸国と国際社会は、朝鮮半島の肯定的な情勢発展を促そうとするわれわれの誠意ある立場と努力を支持し、平和を破壊して正義に逆行するあらゆる行為と挑戦に反対して闘うべきでしょう。

わが党と朝鮮政府は、自主、平和、親善の理念に基づいて社会主義諸国との団結と協力を引き続き強化し、われわれに友好的に接する全ての国との関係を発展させていくでしょう。

同志の皆さん！

われわれは、わが国、わが祖国のために、次代のより明るい笑顔のために決死奮闘する覚悟を改めて固め、新年の旅程を始めることとなります。

過酷な経済封鎖と制裁の中でも自分の力を信じ、自分の手で前途を切り開いて飛躍的な発展を遂げた昨年を誇らしく総括して改めて再三確信するのは、わが国家はいかなる外部の支援や誰かの助けがなくても、いくらでも十分にわが人民の強い力と努力で朝鮮式社会主義発展の道に沿って力強く前進していけるという真理です。

今年もわれわれの前進過程は絶え間ない障害と挑戦に直面するであろうが、誰もわれわれの決心と意志を変えられず、力強い進軍を逆戻りさせられないし、わが人民は必ず自分の美しい理想と目標を輝かしく実現するでしょう。

こぞって真の人民の国、社会主義祖国の富強、発展のために一つの心、一つの志で力強く働いていきましょう。

●朝鮮中央通信社論評：「日本の未来は過去の清算にある」（01/16）

「拉致問題」は解決済み、日本は過去の清算を

去る1日、日本の安倍（晋三）首相が年頭所感を発表する場で、戦後日本外交の総決算をうんぬんし、いわゆる「拉致問題」の解決に全力を尽くすと無駄口をたたいた。

これは、「拉致問題」を口実に過去の特大型の反人倫犯罪を何としても覆い隠し、その清算を回避しようとする日本特有の破廉恥な行為にすぎない。

「拉致問題」は、われわれの誠意と努力によって既に解決済みの問題であり、もはや存在しない。

われわれに「拉致」されたという行方不明者が列島の各地で引き続き発見されている事実は、この問題がわれわれとは何ら関係がなく、逆に日本社会の劣悪な実情を示す指標にしかならないことを実証している。

自国の社会悪が招いた問題をわれわれと無理やり結び付けてかみ付く日本の態度は、この国が心から朝日両国間のもつれた問題を解決し、友好を図る意図ならぬ他の不純な目的を追求していることを世界に刻印させるだけである。

日本は拉致大国、特大型の反人倫犯罪国家である。

20世紀、日本はわが国を不法に占領し、野蛮な徴兵・徴用政策の下、840万余人の朝鮮の青壮年を拉致、誘拐、連行して戦場と死の苦役場に駆り出し、同じ手法で20万人の朝鮮の女性を「皇軍」の性奴隷に転落させたし、100余万人の朝鮮人を無残に虐殺した。

多くのアジア諸国に日帝の血みどろの軍靴の跡が残っている事実を考慮すると、日本が朝鮮をはじめとするアジア諸国の人民にどれほど多大な損害と苦痛を与えたのかは察するに難くない。

にもかかわらず、日本はこんにちまで過去に働いた自分らの天人共に怒れる犯罪行為に対する賠償はおろか、反省も、謝罪もしていない。

国際社会の日増しに激烈になる対日糾弾と非難で目を覚ます代わりに、「拉致問題」を世論化、国際化して世界の視線を他にそらし、過去の犯罪の責任を逃れようと狂奔している。

日本こそ、道徳的に低劣で厚顔無恥極まりない国である。

日本がとんでもない「問題」を掲げて普通の国家の隊列にこっそり入れると思うなら、これほど愚かで幼稚な妄想はない。

日本は、正義と不正義に関する正しい見解をまず持たなければならない。

人類に莫大（ばくだい）な損害と苦痛を強いた歴史的事実に対する謙虚な認定と誠実な反省、痛切な謝罪と徹底的な賠償なしに、むしろ、それを正当化する国が普通の国家になれないのはあまりにも自明である。

醜悪な犯罪の歴史との断固たる決別だけが、国際社会に映る日本の汚らわしいイメージを改善する道である。日本の未来は過去の清算にある。

●朝鮮中央通信社論評（01/22）

「朝鮮半島の情勢発展に逆行した責任から逃れられない」

日本の英仏との軍事共助は情勢発展に逆行

最近、日本が英国、フランスなどとの軍事関係の構築に熱を上げている。

先日、安倍（晋三）首相が英国首相との共同記者会見で、対朝鮮圧力措置の一つとして今年初めに英国のフリゲート艦モントローズが日本に派遣されると明らかにしたのに続き、フランスと日本の外相、国防相の会談でも来る4月からフランスの海上哨戒機とフリゲート艦バンデミエール、原子力空母シャルル・ドゴールが日本の「自衛隊」との共同訓練に参加することについて謀議した。

われわれの「問題」を口実にさらに本格化する日本の反動層の海外軍事共助の動きは、他国まで引き入れて朝鮮半島情勢をあくまでも悪化させることで、自分らの再侵略野望の実現と軍国主義の復活を促進しようとする下心の表れである。

戦争の瀬戸際まで突っ走っていた朝鮮半島情勢が好転していく歴史的な転換の局面で古い対決構図が崩れ、平和と安定のための新しい気流が流れている。

このような情勢の発展を快く思わず、何としてもこれを逆戻りさせようとはらがっていることでこんにちの国際情勢の流れから排除されている日本が、フランスと英国まで引き入れて情勢を混乱させる軍事行動を画策しているのは国際社会を驚愕（きょうがく）させている。

A F P通信をはじめ多くのメディアが「トランプ政権のアジア同盟国に対する防御の意志が疑わしい状況で、日本はフランスを引き入れて中国と北朝鮮を警戒している」と嘲笑しているのは偶然ではない。

今、日本周辺の国と地域は他国に対する軍事的威嚇で生じることになる情勢の緊張を必要としていない。むしろ、日本の好戦的発言とは正反対の立場を堅持している。

日本政治のかじを取った当局者が大勢の流れにあくまでも背を向けたまま制裁、圧力を騒ぎ、誰それを後ろ盾にして軍国化と再侵略野望の実現で進展を遂げようとするところこそ、愚か極まりない行為である。

特に、一部の国が国連安全保障理事会の「制裁決議」履行を口実に朝鮮半島周辺水域に軍艦を派遣しようとするのは、わが国家の自主権を侵害し、緊張と対決を引き起こす危険極まりない軍事的挑発になる。

さらに、20世紀にアジア人民に計り知れない惨禍を強いて敵国の汚名をすすいでいないし、今も何としても朝鮮半島情勢を悪化させて軍国化の名分を立てようと策動する日本と共にわれわれを狙った軍事行動に出ようとするのは、わが人民の大きな怒りを買っている。

朝鮮半島と地域の情勢安定は決して容易にもたらされたものではないし、真の平和を願う国なら、現在の局面を重んじるべき共同の責任を担っている。

朝鮮半島の肯定的な情勢発展に逆行するのではなく、それを促すのが世界の平和と安全保障を使命とする国連安保理常任理事国としての責任を果たす道である。

それが誰であれ、朝鮮半島と地域に流れる平和的気流に逆行するなら、その結果に対する責任から絶対に逃れられなくなるであろう。

●朝鮮中央通信報道（01/24）

金正恩党委員長が訪米結果を聴取、第2回朝米首脳会談準備を指示

朝鮮労働党委員長で朝鮮国務委員会委員長、朝鮮人民軍最高司令官であるわが党と国家、軍隊の最高指導者金正恩同志が米国のワシントンを訪れた第2回朝米高位級会談代表団と会見した。

敬愛する最高指導者は23日、朝鮮労働党の金英哲副委員長を団長とする第2回朝米高位級会談代表団のメンバーからワシントン訪問の結果を聴取した。

敬愛する最高指導者は、代表団がホワイトハウスを訪問して米国大統領と会い第2回朝米首脳対面の問題を論議し、米国の実務陣と両国間の解決すべき一連の問題を協議した状況について具体的に報告を受けた。

敬愛する最高指導者に金英哲副委員長は、米国のドナルド・トランプ大統領からの親書を渡した。

敬愛する最高指導者は、トランプ大統領が寄せた立派な親書を受け取り、大きな満足の意を表した。

また、トランプ大統領が第2回朝米首脳対面に大きな関心を持って問題解決のための並々ならぬ決断力と意志を披歴したことを高く評価した。

そして、われわれはトランプ大統領の肯定的な思考方式を信じて忍耐と善意の感情を持って待つであろうし、朝米両国が共に到達すべき目標に向かって一步一步共に進むであろうと述べた。

敬愛する最高指導者は、朝米高位級会談代表団がワシントンで行った会談の状況と活動の結果に満足の意を表し、日程に上った第2回朝米首脳対面に関する実務的な準備をしっかりと行うことに関する課題と方向を示した。

●朝鮮中央通信社論評：「将来を見通しての振る舞いか」（01/29）

日本の反朝鮮海上遮断策動は情勢に逆行

日本が反朝鮮海上遮断策動に熱を上げている。昨年、われわれのいわゆる海上での瀬取りの可能性を国連安全保障理事会の対朝鮮制裁委員会に告発して稚拙に振る舞った日本が、今年に入ってまたもやわれわれが公海上で船籍不明の船舶から石油製品を瀬取りした疑いがあると大騒ぎして国際社会を混乱させている。

地域情勢の流れに押し出された連中の意地の悪い振る舞いであり、笑止千万である。

現在、わが国家を軸に活発に行われている各側の対話と、それによる地域情勢の肯定的な発展は日本を日々不安にさせている。

対朝鮮敵視政策実現の第一線で反朝鮮対決共助・圧力共助を叫んで狂ったように疾走してきた日本が、朝鮮半島情勢の流れが緩和と対話へと急転したことで失望感、孤独感、きまり悪さなどを体験し、いまだに外交上どう動けば良いのか分からずに戦々恐々としている。

その上、朝鮮半島と地域に吹いている平和と安定の薫風は、日本が戦争国家樹立の政治・軍事的、社会・経済的な土台の構築に利用してきた「北朝鮮脅威論」の名分までも吹き飛ばした。

これに慌てふためいた日本の反動層が不利な形勢から抜け出す下心で、反朝鮮海上遮断策動に他国の監視用の装備や人員まで引き入れて先頭に立って狂奔しているのである。

それを通じて朝鮮半島問題の解決で自分らの存在感を誇示し、ひいてはわが共和国の平和守護の努力に冷や水を浴びせて情勢を対決時代へと逆戻りさせることで軍事大国化、海外膨張の汚らしい野望をあくまでも達成しようというのである。

日本の策動は、現在の情勢の流れに逆行するドンキホーテのような妄動である。

今、周辺諸国と国際社会は朝鮮半島の肯定的な情勢の発展を促そうとするわれわれの誠意ある立場と努力を支持し、現在の情勢緩和の過程がさらに加速して世界の平和と安全、文明発展に寄与するよう願っている。

このような時に、日本が狂ったように対朝鮮圧力を鼓吹して情勢激化をもたらすためにあがくことこそ、人類の平和の念願に対する真っ向からの挑戦にほかならない。

今のように情勢の流れに逆行して意地悪く振る舞うほど、日本が疎外される迷宮にさらに深く入る結果しか与えられるものはない。

既に、アジアのあるメディアは「朝鮮半島問題で日本が疎外される『ジャパン・パッシング』の懸念が大きくなって安倍らが全方位外交に臨んだが、無理な要求と不適切な言動でかえって反感ばかり買っている。『ジャパン・パッシング』は、安倍政権が国内の極右政治に北朝鮮の核問題を活用してきたことで起きた現象である。これを反省せずにはその現象を解消できないであろう」と指摘した。

もっともな指摘である。

大勢に背を向ければ、他人ではなく自身の前途を台無しにするものと日本ははっきりと知らなければならない。

●朝鮮中央通信論評：「見るに耐えない政治漫画」（01/31）

「自由韓国党」は権力争奪ではなく解体を

最近、南朝鮮で「自由韓国党」が演じた全党大会劇で政界が修羅場と化している。

党代表の椅子一つに実に10余人もの候補が寄ってたかってかみ付き合うありさまなので、「血闘」の表現が過言ではないと言うべきであろう。

そこへ、これまで政界の隅をうろついて「相場」を眺めていた黄教安まで正式に加わって狂奔することで、「自由韓国党」の権力争奪戦は文字通り血みどろの闘いを連想させる。

南朝鮮のメディアは、全党大会がますます見ものであるとやゆ、嘲笑している。

「生ける屍（しかばね）党」と指弾されるすっかり落ちぶれた党の権限を握ろうとありとあらゆるくずがおのおの「リング」に飛び込んで泥仕合を繰り広げる醜態は、見るに耐えない希代の政治漫画である。

民心の峻厳（しゅんげん）な審判を受けて歴史のどぶに放り込まれた保守逆賊党であるとみれば当然、その解体を論議するのが道理である。

にもかかわらず、「自由韓国党」が代表選出のための全党大会なるものを行ったこと自体がろうそくを掲げた民心に真っ向から挑戦する犯罪行為である。

南朝鮮の民心は、歴史にかつてない激烈なキャンドル抗争で朴槿恵逆徒を権力の座から引きずり下ろし、反逆政党も共に懲罰した。

しかし、保守一味はセヌリ党の看板を「自由韓国党」に掛け替え、「革新」と「刷新」の美名の下に民心に報復する機会ばかりうかがっている。

今では、「朴槿恵弾劾は間違い」「名誉を挽回する時が来た」「再執権の基盤を新たに築かなければならない」と公然と騒ぐ域に至った。

今、保守逆賊一味の権力奪取野望は極限に達している。

全党大会に飛び込んだ連中は、一様に朴槿恵逆徒の手足となって同族対決と売国逆賊行為に明け暮れた連中であって、第一の清算対象である。

このような連中が党代表の座を巡っていがみ合うが、保守の再執権という究極の目的では少しも差はない。

大勢の流れと民心の志向にはお構いなく、権力争奪戦に熱を上げる「自由韓国党」の振る舞いは、南朝鮮各界の当然の警戒心をかき立てている。

保守逆賊一味は甚だ誤算している。

誰が代表の座に就こうと、どの派が権力を掌握しようと民心に背を向けた反逆政党は破滅の運命から抜け出せない。

●朝鮮外務省スポークスマン：朝鮮中央通信の質問に回答（02/03）

ベネズエラへの内政干渉を批判

朝鮮外務省のスポークスマンは最近のベネズエラ情勢と関連して3日、朝鮮中央通信の質問に次のように答えた。

1月23日、ベネズエラで国会議長が昨年5月に行われた大統領選挙の結果を無効であると宣布し、暫定大統領を自任する不正常な事態が発生した。

26日にベネズエラの問題に関する国連安全保障理事会の緊急会合が招集されるなど、ベネズエラの事態は複雑な国際的な問題になっている。

主権国家の憲法に基づいて合法的に選出された大統領を追い出そうとする外部勢力のどんな試みも明白な内政干渉であり、国際法に対する乱暴な違反である。

ベネズエラの問題はベネズエラの政府と人民の自主的な意思と決定に従って平和的に解決されなければならないというのがわれわれの確固たる立場である。

正義と平和を志向する全世界の人民は常に、自主権と安定を守るためのベネズエラの政府と人民の側に立っているであろう。

●朝鮮赤十字会：日本当局の遭難船員人道支援に謝意（02/04）

朝鮮赤十字会は、近年、遭難したわれわれの船員が無事に帰国できるよう何度も人道的支援を提供した日本当局に当該のルート通じて謝意を表した。

●朝鮮中央通信社論評：「変わらない海外膨張野望の表れ」（02/11）

日本の哨戒機近接飛行は海外膨張野望の表れ

最近、南朝鮮の海軍艦艇に日本の海上「自衛隊」の哨戒機が近接飛行する事件が次々と発生した。昨年12月に続いて今年1月だけでも、3度も威嚇的な低空飛行が行われ、ただでさえ脆弱な南朝鮮と日本の関係は現在、急速に悪化しているという。

この問題に関連して、南朝鮮と日本の対立と摩擦が大きくなっている背景は何か。

昔から破廉恥な挑発に明け暮れて他国に侵略の魔手を伸ばしてきたのがまさに日本である。次々と起こす近接飛行事件も、他人に言い掛かりをつけて自分の利益を得ようとする日本固有の体質的な領土膨張野望の表れであって、その延長線上で起きたものである。

今回の事件を契機に、朝鮮半島の平和の雰囲気壊し、わが民族に対する再侵略野望を実現しようとする日本の反動層の犯罪的悪巧みがさらにことごとくあらわになった。

日本はこれまで「北朝鮮の脅威」をうんぬんし、これを口実に軍国主義の復活と再侵略野望の実現に狂奔してきた。

朝鮮半島で緊張の度合いを引き上げて軍国主義の復活と「自衛隊」の強化に有利な政治的環境を整えようとする日本の反動層の犯罪的企図がさらに露骨になっている。

朝鮮半島の情勢緊張にかこつけて憲法改正を推し進め、海外侵略の道に合法的に踏み出そうとあがいてきた日本の反動層はこんにち、自分らの政治目的の実現に最近疎遠になった南朝鮮との関係まで利用している。

今、南朝鮮の各階層の人民の間で反日機運が日々高まっているのは極めて当然なことである。

日本の海外膨張野望は昨日も今日も変わりがなく、さらに増大している。

体質的に隣人がうまくいくのを望まない日本の反動層こそ、わが民族の和解、団結を阻み、朝鮮半島と地域の平和と安定を破壊するがんのような存在である。

全同胞は、北と南を問わず挑発に明け暮れてわが民族の未来と朝鮮半島の平和と繁栄を阻む日本の反動層の対朝鮮敵視政策と再侵略野望を断固粉碎すべきであろう。

●朝鮮中央通信報道 (02/28)

金正恩党委員長が米大統領と単独歓談、夕食

朝鮮労働党委員長で朝鮮國務委員会委員長であるわが党と国家、軍隊の最高指導者金正恩同志が、米国のドナルド・トランプ大統領と対面し、単独歓談と夕食を共にした。

対決と反目の悪循環を終わらせ、新たに到来した平和繁栄の時代に応えようとする朝米両最高首脳の高い熱望と進取に富んだ努力、非常な決断によって歴史的な第2回朝米首脳対面と会談がベトナムのハノイで始まった。

朝鮮半島と地域、世界の平和と繁栄に大きく寄与する歴史的な第2回朝米首脳対面を控えて全世界の耳目がハノイに集中している中、現地時間27日午後6時30分、朝米両国最高首脳歴史的な2回目の対面と単独歓談、夕食が行われた。

敬愛する最高指導者が滞在するホテル「メリア・ハノイ」の前にはこの世紀の対面取材し、見守るために集まった記者とハノイ市民、観光客でごった返して人山を築いた。

敬愛する最高指導者は、専用車に乗って警護車両の護衛を受けて米大統領との対面場所であるホテル「ソフィテル・レジェンド・メトロポール・ハノイ」に到着した。

朝米両最高首脳が対面するホテルの面談室「ラ・ベランダ」には、朝鮮と米国の国旗が並んで掲げられていた。

わが党と国家、軍隊の最高指導者金正恩同志がトランプ大統領と8カ月ぶりに再び対面し、固い握手を交わした。

敬愛する最高指導者は、トランプ大統領と両国の国旗を背景に記念撮影を行った。

昨年シンガポール首脳会談の過程とその後の数回にわたる親書交換をはじめとする契機を通じて親交を深めた朝米両最高首脳は喜ばしくあいさつし、言葉を交わした。

敬愛する最高指導者は、不信と誤解、敵対的な視線と古い慣行がわれわれの行く道を阻もうとしたが、われわれはそれを全て砕いて克服し、再び共に歩んで260日ぶりにハノイまで来し、この時間はいつにも増して多くの苦悩と努力、忍耐が必要な期間であったと述べ、今回の会談で皆が喜ぶ立派な結果が出るであろう、最善を尽くすと意義深く述べた。

トランプ大統領は、金正恩委員長に再び会えて光栄に思うし、うれしいと述べ、われわれは大変立派な関係を結んでおり、今回の会談が非常に成功裏の会談になるものと確信すると指摘した。

朝米両最高首脳は続いて、単独歓談を行い、虚心坦懐（たんかい）で率直な対話をした。

敬愛する最高指導者はトランプ大統領と単独歓談を終えた後、親交夕食（ソーシャルディナー）を共にした。

わが方から朝鮮労働党の金英哲副委員長、李容浩外相が、米国側からマイク・ポンペオ国務長官、ホワイトハウスのミック・マルバニー大統領首席補佐官代行が同席した。

朝米両最高首脳と共に両国の人士が親しく円卓を囲んで和気あいあいとした雰囲気の中で行われた夕食では、シンガポール首脳対面以降、両国の関係で相当の進展をもたらしたことを高く評価し、ハノイ首脳会談の成功を祈願する全世界の関心と期待に沿って今回の会談で包括的で画期的な結果を導き出すための真摯（しんし）で踏み込んだ意見を交わした。

敬愛する最高指導者は夕食後、トランプ大統領と別れた。

敬愛する最高指導者は、歴史的な第2回朝米首脳会談の初日の日程を終えて宿舍のメリア・ハノイへ向かった。朝米両国最高首脳は28日、再び対面して会談を続ける。

●朝鮮中央通信報道（03/01）

金正恩党委員長が米大統領と2日目の単国会談、拡大会談

朝鮮労働党委員長で朝鮮国務委員会委員長であるわが党と国家、軍隊の最高指導者金正恩同志が2月28日、米国のドナルド・トランプ大統領と再び対面して会談した。

敬愛する最高指導者は、現地時間午前9時から朝米首脳会談の場所であるハノイ市のホテル「ソフィテル・レジェンド・メトロポール・ハノイ」でトランプ大統領と再び対面し、単国会談と全国会談を行った。

朝米両最高首脳は単国会談と全国会談で、シンガポール共同声明を履行するための歴史的な道のみで注目すべき前進が遂げられたことを高く評価し、これに基づいて朝米関係改善の新しい時代を開いていく上で提起される実践的な問題について建設的で虚心坦懐な意見交換を行った。

各会談では、朝鮮半島の緊張状態を緩和して平和を促し、完全な非核化のために双方が傾けた努力と主導的な措置が互いの信頼を図り、朝米両国の間で数十余年間持続してきた不信と敵対の関係を根本的に転換していく上で重大な意義を持つことについて認識を同じくした。

敬愛する最高指導者とトランプ大統領は、シンガポール共同声明で示した共同の目標を実行していくために現段階で必ず解決すべき問題に対する互いの見解を聴取し、その方途を真摯に論議した。

敬愛する最高指導者とトランプ大統領は、70余年の敵対関係の中で募った反目と対決の障壁が高く、朝米関係の新しい歴史を開いていく旅程で避けられない難関と曲折があるが、互いに手を固く握り、知恵と忍耐を発揮して共に乗り越えていくなら、十分に両国人民の志向と念願に即して朝米関係を画期的に発展させられるとの確信を表明した。

朝米両最高首脳は、2回目となるハノイでの対面が互いの尊重と信頼をさらに深め、両国の関係を新たな段階に飛躍させられる重要な契機になったと評価した。

敬愛する最高指導者とトランプ大統領は、朝鮮半島の非核化と朝米関係の画期的発展のために今後も緊密に連携し、ハノイ首脳会談で論議された問題の解決のための生産的な対話を続けていくことにした。

敬愛する最高指導者は、トランプ大統領が遠い道を行き来して今回の対面と会談の成果のために積極的な努力を傾けたことに謝意を表し、新しい対面を約束して別れのあいさつを交わした。

全世界の大きな関心と期待の中で行われた第2回朝米首脳の対面と会談は、朝米関係を両国人民の利益に即して発展させ、朝鮮半島と地域、世界の平和と安全に寄与する意味のある契機となる。

●朝鮮中央通信社論評：「『政権』奪取を公然と叫ぶクーデター勢力」（03/13）

第2の朴槿恵として登場した黄教安

南朝鮮で「自由韓国党」の黄教安代表が革新勢力との真っ向からの対決を鼓吹している。彼らを「暴政勢力」と罵倒し、「熾烈（しれつ）な闘いをする」「果敢に闘って世を変える」と青筋を立てている。

党の運営方向を「左派阻止闘争」に定めて各地を走り回り、「政府」の「政策失敗」を際立たせることに躍起になっている。

社会世論はこの狂気じみた妄動をキャンドル抗争の成果を覆して「政権」を奪取しようとする政治クーデターであると断罪している。

黄教安が党代表になるなり起こした対決騒動は、朴槿恵逆徒が弾劾された後、これまでろうそくを掲げた民心に報復しようやいばを研いできたその下心をことごとくあらわにしている。

これとともに、このような者を首長とした「自由韓国党」の反逆的正体は昨日も、今日も変わったものがないことを示している。

いつとき雲隠れしていた黄教安が昨年、政界に顔を出した際、既に南朝鮮の民心は彼が「自由韓国党」の代表になる場合に招く悪い結果について警鐘を鳴らしていた。

天下の悪女のスカートの裾にしがみついて法相、「国務総理」の職に就いて独裁権力の味を占め、逆徒の弾劾後には「大統領」になる妄想までしていた極悪な絞刑事、権力野心家がまさに黄教安であるからである。

南の地を席卷したキャンドル抗争の通りで「黄教安は朴槿恵だ！」「朴槿恵拘束、黄教安退陣！」の怒号が上がったのは、逆徒の特級の共犯者である黄教安に対する告発状、判決文であった。

にもかかわらず、既に墓穴に放り込まれているべき特等の罪人がいまだに意気込んで狂奔し、世の中を変えるとわめき散らすことこそ、万人の怒りをかき立てる悲劇にほかならない。

黄教安の「政策失敗」うんぬん、「親北左派別決（てっけつ）」騒動は保守逆賊党が働いた罪行を覆い隠すための術策であると同時に、北南関係の改善と朝鮮半島の平和、民族の共同繁栄を切々と願う南の民心に対する横暴な挑戦である。

「政権」奪取を公然と叫び、南朝鮮を再び対決が横行する場にしようとする保守一味の無分別な妄動は少しも許されない。

逆賊の群れの騒動を断固踏みつぶさないなら、南朝鮮人民が果敢な闘いで勝ち取った獲得物が抹殺され、ファッションと不正義がのさばる暗黒時代に逆戻りするしかない。南朝鮮の民衆は、第二の朴槿恵として登場した黄教安とその一味を無慈悲に一掃するであろう。

●李容浩外相が第2回朝米首脳会談の結果について会見（03/01）

朝鮮の李容浩外相と崔善姫外務次官が1日、ハノイ市内のメリアホテルで記者会見を開き、第2回朝米首脳会談についての立場を表明した。以下、李容浩外相のコメント全文と記者の質問に対する崔善姫外務次官の発言要旨。

■李容浩外相

今回の第2回朝米首脳会談の結果に対するわれわれの立場をお知らせします。

朝米両首脳は今回、立派な忍耐力と自制力を持って2日間に渡り真摯な会談を行いました。われわれは昨年6月のシンガポール会談の中で、朝米首脳会談の共同認識としてなされた段階的解決原則に則って今回の会談で現実的な提案を提起しました。

米国が国連制裁の一部、すなわち民需経済と人民生活に支障をきたす項目の制裁を解除すれば、われわれは寧辺核施設のプルトニウムとウラニウムを含めた全ての核物質の生産施設を米国専門家の立会のもとに、両国技術者たちの共同作業で永久かつ完全に廃棄するということです。

われわれが要求することは、全面的な制裁解除ではなく一部解除、具体的には国連制裁決議 11 件の中で、2016 年から 2017 年まで採択された 5 件、その内、民需経済と人民生活に支障を与える項目だけを先に解除するということです。これは、朝米両国間の現在の信頼水準を見ると、現段階でわれわれが踏み出すことができる最も大きな歩幅の非核化措置です。

われわれが非核化措置を取っていく中でより重要な問題は安全担保の問題ですが、米国がまだ軍事分野の措置を取ることが負担になるだろうと見て、部分的な制裁を相応措置として提案したのです。

今回の会談でわれわれは米国の憂慮を軽減するために、核実験と長距離ロケット実験を永久に中止するという確約も文書形態で与える用意があることを明らかにしました。

信頼醸成段階を経れば、今後、非核化過程は一層早く前進させることができるでしょう。しかし会談過程で米国側は、寧辺地区の核施設廃棄措置以外に、もう一つプラスしなければならぬと最後まで主張しました。それにより、米国がわれわれの提案を受け入れる準備ができていないということが明確になりました。

現段階でわれわれが提案したことよりも、より良い合意がなされるかを、この場で述べるは難しいことです。今回のチャンスが再び訪れるかも難しいかも知りません。

完全な非核化への道のりには、必ずこのような初段階の工程が不可避であり、われわれが出した最大限の法案が実現する過程を必ず経なければなりません。

われわれの原則的立場には僅かな変りもなく、今後、米国側が交渉を再び提起してくる場合でも、われわれの方案に変わりはありません。以上です。

■ 崔善姫外務次官の発言要旨

寧辺地区と関連し、今回われわれが出した案は外相が明らかにしたように、寧辺の核団地全体、その中に入っている全てのプルトニウム施設、全てのウラニウム施設を含めた、全ての核施設を丸ごと米国専門家の立会のもとに永久的に廃棄するという、歴史的に提案しなかった提案を今回行いました。その代わりにわれわれが米国側に要求したことは、外相が明らかにしたように制裁決議の中で、民生用と民需用の 5 件を解除するよう要求しました。

このような提案を米国側が今回受け入れなかったことは千載一遇のチャンスを逃したようなものだと思えます。

民生に関してはわれわれが提案した 5 件の制裁決議の中で、軍需用については、まだ要求していません。民生と関連し、人民生活、経済発展と関連した部分に対する制裁解除を要求しただけです。

2016 年から取った対朝鮮決議は 2270 号、2375 号など、5 件ですが、その中でも 100%ではなく、民生と関連した部分だけ制裁を解除するよう要求しました。

われわれが提案したのは、寧辺核団地全体に対する永久的廃棄です。ここで（廃棄を）実行するときは米国専門家も立ち会えるようになっています。

今回私が首脳会談を横で見ながら、わが国務委員長が米国による米国式計算方法に対して少し理解に苦しんでいるのではないかと、よく理解できないのではないかと印象を受けました。

このように過去にはありえなかった寧辺核団地を丸ごと廃棄するという提案を出したにも関わらず、このような民需用の制裁決議の部分的決議まで解除するのが難しいという米国側の反応を見ながら、わが国務委員会委員長が今後のこのような朝米交渉に対して、少し意欲を失くしたのではないかと、そのような印象を受けました。

次の会談は決まっていません。一つ強調したいことがあります。米国の核科学者ジークフリード・ヘッカー博士が核施設にある、濃縮ウラニウム工場を訪問したことがあります。その工場までも、巨大な濃縮ウラニウム工場まで含めた全ての核施設をわれわれが今回永久

かつ不可逆的に破棄するという提案を出しましたが、これに対する米国側の呼応はありませんでした。

そして今後、このようなチャンスが再び米国側に訪れるのか、これについて私は確信をもって言えません。

●[労働新聞情勢解説] 情勢悪化を煽る危険な企図 (03/22)

最近南朝鮮軍部が現情勢の流れに反する危険な軍事的企図を引き続き露わにしている。南朝鮮軍部は米国とともに「同盟」合同軍事演習を強行したのに続き、来る4月には「双竜」訓練を、5月には「乙支太極」演習を単独で行うと宣伝している。

これは朝鮮半島における緊張緩和と、恒久的で強固な平和を願う全民族の要求に顔をそむけ、対決を鼓吹する危険な軍事的動きである。南朝鮮のメディアと各界層の中で、軍部の好戦的な動きとそれが招く結果について憂慮する声が出ているのは決して偶然ではない。相手を刺激し、不信と対決を惹起するそのような危険な軍事的企図が、結局はどのような結果をもたらすのかということについて知らない者がどこにいるのか。

情勢悪化を煽るいかなる軍事的挑発策動も、絶対に許してはならないというのが内外の世論の一般的な声である。

朝鮮半島の強固な平和実現に百害あって一利もない軍事的挑発行為は、全民族の糾弾、排撃を免れないであろう。

●朝鮮中央通信社論評：「自らの境遇をしっかりと分かって行動する方が良からう」

日本の「対朝鮮独自制裁」延長企図を非難 (03/25)

日本が対朝鮮敵視策動に必死にしがみついている。先日、日本政府は「北朝鮮問題」で進展がないので圧力を引き続き維持する必要があるとして、来月13日に期限を迎える「対朝鮮独自制裁」を再度延長する企図をあらわにした。

見ものなのは、日本の反動層が自分らの意地の悪い行為が朝鮮を「無力化」する唯一の手段であり、地域情勢の流れにも加われる活路になると愚かにも見なしている事実である。

実に初歩的な現実判断能力もなく、哀れな自分の境遇も分からない間抜けの行為にほかならない。日本が制裁の類いでわれわれの前途を阻めるとするならば、それは妄想である。

専ら自分の力を信じ、自力更生を飛躍の原動力にして社会主義強国の高い頂に向かって力強く進むわが共和国を制裁騒動で果たしてどうにかできると思うのか。むしろ、つまらない敵対行為によって現実的な被害を受けているのがほかでもない日本である。

周知のように、今日本は世界的趨勢である対朝鮮外交の流れから排除されて疎外の苦汁をなめている。対朝鮮敵視政策を軍事大国化と海外膨張など犯罪的な極右政治の実現に執拗に利用してきたことで、わが国を軸に活発に展開されている地域の平和プロセスに割り込める資格と名分を喪失したからである。

日本としては、自分らが陥った状況から教訓を得て政策転換の道に進むべきであった。

しかし、この列島国家は無分別な敵視政策一辺倒で「対朝鮮独自制裁」策動に引き続きしがみつくと、全人類が期待する朝鮮半島と地域の情勢緩和の流れに真っ向から挑戦している。

日本の反動層が再びたくらむ制裁延長劇は、大勢に逆行する平和破壊勢力に対する国際社会の糾弾と排撃を激しく増幅させ、孤独な島国をより一層脱し難い政治的・外交的孤立に追い込むであろう。

国際社会に恨みを買うことばかり行う安倍一味こそ、一寸先も見通せない節穴であり、愚かな妄動で自国の未来を破局に追い込む自滅の群れである。

忠告するが、つまらない制裁策動にしがみつくと、わが人民に働いた天人共に怒れる過去の罪悪をまず謝罪して、きれいに清算するのが国の将来のためにもより良いであろう。

●朝鮮外務省スポークスマン：朝鮮中央通信の質問に回答（03/31）

スペインの該当当局が朝鮮大使館襲撃事件捜査を最後まで責任を持つべき

朝鮮民主主義人民共和国外務省スポークスマンは最近スペイン駐在わが大使館に対する襲撃事件が起きたことについて、31日、朝鮮中央通信社記者が提起した質問につきのように答えた。

去る2月22日、武装した怪漢がスペイン駐在朝鮮大使館を襲撃し、大使館員たちを縛り付け、殴打、拷問し、通信機材を強奪する重大なテロ行為が発生した。

外交代表部に対する不法侵入と占拠、強奪行為は国家主権に対する重大な侵害、乱暴な国際法じゅうりんであり、このような行為は国際的に絶対に許されてはならない。

今回のテロ事件にFBIと反共和国「団体」の手下が関与しているというなど各種の説が出まわっていることに対してわれわれは注視している。

われわれは事件発生地であるスペインの該当当局が事件捜査をあくまでも責任をもっておこないテロリストとその背後操作者たちを国際法に適すように公正に処理する事を望み、その結果を根気強く待つ。